

の剪り方及書き方(研究科生小高ツヤ)、第二部二の組の積み方(保姆坂内ミツ)であつた。此の中遊戯は遊戯室にて、他はそれ／＼保育室にて、御機嫌いともうるはしく、畏れ多きばかり御懇ろに、御興味深く 御覽あらせられたる由に承はる。遊戯の『桃太郎』、『ねぐらの雀』、『飛行機の夢』は、その愛らしき合唱と動作とを、如何に可憐にみそなはせられたであらうか。各種の手法の、或は汽車に、或は旗に幼き趣向のさまざまを、如何におかしくみそなはせられたであらうか。又此の日校長より捧呈の品々の中には、幼児の製作品も亦含まれたりと聞く。それ等の品々をも、如何におかし

くみそなはせられたであらうか。思ひ見るども、實に畏しくも亦有り難きことである。殊に 陛下には御幼少の御砌り、一年ばかりを幼児として此の幼稚園に通はせられたる由に承はる。遊園其他にさまざまの遷りかはりこそあれ、建物は昔を其のまゝの位置をかへず。古き御思ひ出の數々を、御さそひまゐらせる。漏れ承はる處によれば、その頃の御思ひ出を偲び給ふ様の御言葉もありしかとさへ聞く。——御上のことは推しまゐらすも畏し。たゞ、光榮多き幼児達よ。此の光榮の日と母園とを永く忘るゝことなかれ。

## 文展の子供の繪

倉 橋 生

今年の文展には子供の繪が甚だしい。殊に子供の繪の研究といふ意味から、記憶に残るような作

は殆んど無いと言つてもよい。審査の標準が少し高くなつたか出品が比較的精選せられ、殊に俗惡

な美人畫が淘汰せられて展覽會としては大に心持ちのよい展覽會であるが、子供の繪の少いことは大に吾輩を失望させた。しかし例年の例だからといふので、催促せられて少し書く。

此の展覽會で一番目につくのは、田舎のある素朴な平和な氣分を描く爲に、その材料の一つとして用ひられて居る子供の多いことである。『志摩の五月』(渡邊公觀)、『桃の里』(山下竹齋)、『素焼』(滿谷國四郎)、『水郷の初夏』(小寺謙吉)等がそれである。而して、之れは純粹に子供を描く爲の子供の繪としては見られぬものであるけれども、子供の生活の或る一面が、氣分的に取扱はれて居るものとしては注意に價する。ミレーの作などに此の類ひのものがある。さて此の中で最も優れて居ると思つたのは『素焼』である。あの母親に抱かれて、皆が燒物に就て話しあつて居る、そんな話には無頓着に、右の手を母の懷に入れて、乳房をさがして居る心持、殊に母の手に抱きかゝへられた子供

の腰から、足の極く自然な線の錯綜に、實に敬嘆すべき妙味がある。吾輩は此の畫の前に立つて、ちつと眺めて居る間に、ゆるやかに、のんびりした此の畫面の氣分に吸ひ込まれてゆく様な感を味つたが、それには此の子供の無心な平淡な趣が識らず／＼の間に大に與つて居る。『水郷の初夏』では、入江に近い田舎家の前庭で、子供が行水を使はせられて居る。年齢は丁度『素焼』の子供と同じ三歳位ゐる。その背をまるめた盥の中の裸體が可なりよく描かれて居る。しかし、此の畫家は此の畫面中に此の子供を置く、着想上の必然性について呆してどれ丈かの確乎たる考へを持つて居るのか、その點に多少の疑がある。『素焼』ではあの子供を除くとあの畫全體のエフェクトがこわれる。それ程に彼の畫と彼の子供との融合が、しつかり出來て居る。『水郷の初夏』には、それ程の強い確信があるかどうか。之れは畫家の主觀に入ることと論議の限りでもなく、また餘り立ち入つて穿鑿する

のは禮でないのであるが、此の作に於ける此の子供を研究するとしては、どうしても茲まで突き込んで行かざるを得ぬ。蓋し畫中、子供といふ限りに於ては、吾輩の方が恐らく畫家自身よりも、より多くのインポートランスを要求して見て居るからである。そこで最も思ふまゝを言へば、『素焼』の子供の實に現實の子供なるに對して、『水郷の初夏』の子供は、水郷の初夏といふ詩中の子供といふ風があつて、それだけ力が弱いといふことになる。而して、之れは此の兩作の比較についていふばかりでなく、一般に、子供をあしらへる畫について屢々言ひ得る比較である。『志摩の五月』と『桃の里』とは、子供そのものよりも、子供の幸福なる環境といふことを先づ思はせられる。

『首夏』(清水古關)の玉蜀黍を置いて居る女の子は、その體格の描寫に於て、大に成功して居る。殊に横向きの襟り足から背、背から帯へかけてのあたり、確に、彼の壓縮すべき、成人を小さくし

た子供の繪ではない。又その力強い足に、田舎の子供といふこともよくあらはれて居る。たゞ此の子の個性といふものゝハッキリして居ないのは、繪の子供といふ域を脱して居ないが、そこまでの注文は容易のことであるまい。

『月蝕の宵』(上村松園)は、實に名作である。畫題に應ずる心持ちが、充分に畫面に漂ふて居る。殊に此の一人の子供を配し來つて、其の印象を更に一步強めた處に、流石に名手敬服すべきものがある。殊に叔母さんの紗の羽織の裾を使つて、おどけた顔をすかして見せるとは、ボンヤリと明るい月蝕の宵をあらはすに憎い程の手腕である。而して、其の子供が實によくふざけて居る。斯くて、此の畫に碎けた、較いユーモアの調子を點じて、實に月蝕の宵の眞面目の様な遊びの様な氣分をよく出してある。之れ等も畫中に子供の最も巧みな使ひ方の一つであらう。

それから、比較的孩子が主になつて居ると見る

べき畫には『樹蔭』(田邊至)、『ひがん花』(清水良雄)、『椽さき』(森岡柳藏)、『庭の木蔭』(大久保作次郎)、『食後』(渡邊ふみ子)がある。が、『庭の木蔭』を除いては、他は如何にも手致が幼くて、何等の強い印象を残さない。殊に『椽さき』では、着物の上からのみ見て、眞に子供の骨格の研究に乏しい一般子供繪の弱點があらはれて居る。『庭の木蔭』は庭の木蔭といふイメージな、ふだんの感じがよく出て居る。此のふだんの感じといふことは、子供繪には極めて必要なる一つの條件であつて、子供は、よそいきにしなければ繪にならぬとでもいふ様な思ひ違ひは、子供繪の發達に甚だ有害なものである。衣裳、動作に於ては勿論、氣分そのものに於て、ふだんの處に子供の美を發見し得ないものは、子供を描く資格はない。此の作は此の點に於て近來珍しい出色の畫であるといつてよい。

## ○上野氏『學校兒童精神検査 法指針』

文學士上野陽一氏の新著『學校兒童精神検査法指針』は兒童研究の方法を懇切に示した近來の好著である。兒童研究、兒童研究と呼んでも、要は實際の兒童研究が多く行はれなければならぬとして、それには、正確なる研究法の指針が是非とも必要である。此の書は實に此の要求に應ずるもの、上野學士の手際よき叙述を以て、充分に其の目的を達して居る。學校兒童と題しては、あるが、幼兒研究にも亦無論適用せられる。各幼稚園に必携の書の一つとして、廣く推擧する。(東京市外上駒込、心理學研究會出版部發行、定價金六拾五錢)

## 雜 錄

### ○福島縣保育大會

福島縣保育大會は十月廿二日午前九時半より郡山子守教場に於て開會せられた、是れより前き出席員は午前八時より郡山幼稚園の實地保育を參觀し、少憩、この間參考品展覽會の縦覽あり、後開會したが、此日天晴れ氣清く心氣又頗る爽快、當番郡山幼稚園々長慶徳多一氏開會の辭に兼ねて諸報告を爲し、來賓遠藤安積郡長及出席員須藤二本